

管理運営について

1. 管理運営に係る市民の関わり方 ～計画段階、運営段階での関与

【有識者会議にて運営面に関連して頂いた主なご意見】

市民参加	・ 早い段階から市民を巻き込んで検討を行うことや、市民の意見を反映する仕掛けづくりがあるとよい ・ オープン後も、施設コンセプトを利用者自らが見直し、刷新していく仕組みの構築 ・ 市民と専門家が連携して、常に施設が使われている状態を作り出すことが肝要 ・ 利用者自ら、施設のコンセプトや施設の使い方などを考え・動くようなことができる施設運営になるとよい
専門家の関与	・ クリエイター、アーティスト、キュレーターなどの専門家を配置し、運営に関与することも考えられる ・ 保管・収蔵機能を実現にあたっては、人材育成が必須。施設整備に先行した人材育成を行う必要がある
地域との関わり	・ 魅力的な施設で鳥取のまちが活気づく、人がやってくる、それによってさらに鳥取が元気になっていく仕組みづくり ・ 新たな文化施設以外の街中の施設への利用も案内・誘導する仕掛けづくり ・ 新たな文化施設が市民とデザイナー・クリエイターのマッチングができるような拠点になると、まちの活性化にもつながるのではないかと

- 
- ✓ 新たな文化施設では、文化芸術活動を行う場の提供だけでなく、以下を可能とする環境整備が大切
 - － 市民、訪問者、専門家など多様な人々をつなぎ、育てていく環境を作る
 - － みんなでつくり、成長し続ける文化芸術の拠点になる
 - － 持続可能な施設・事業運営が行われる など
 - ✓ ひとや施設を育てるためには、ハード（施設計画）だけでなく、ソフト（運営）が重要であり、
「①計画・設計・建設段階」「②運営段階」の各ステージにおける市民の関わり方を含めて運営のあり方を考えていくことが必要

2. 計画・整備段階における関わり方 (※第3回会議資料を一部修正)

- ✓ 下図は計画・設計段階における他の自治体の取組事例。市民組織と市と一緒にワークショップや勉強会であり方を検討したり、施設計画に対する市民意見の反映、設計コンペの公開等、様々な方法で、市民の関与を念頭に置いた取組が行われている
- ✓ 新たな文化拠点においては、市民等を含む推進組織の検討を行うことも想定される

【他の自治体における取組事例】

基本構想・基本計画

【構想段階】

▼基本構想段階から具体的なアクティビティを検討

○事例：石川県立図書館

利用者起点の施設整備を実現するため、職員が利用者の個別のアクティビティ例を整理し、機能の検討に活用。「県民の多様な文化活動・文化交流の場」という基本コンセプトを導いた。

また、職員が国内外の施設を現地視察し、あるべき図書館の姿を追求。

▼市民投票、WSによる対話

○事例：みるる（那須塩原市図書館）

エリア活性化に取り組んでいた商店街の有志メンバーを前身とする市民組織が「えきっぷくろいそ」を設立。当組織が市と協働しながら対象エリアの在り方を話し合うWSを開催。WSで提案されたアイデアをもとに市民投票を実施。市民はアイデアに対して賛成・反対を回答するほか、自らのアイデアを投票項目として追加することが可能。市民投票の結果は、事業計画に反映。

基本・実施設計

整備

運営

【設計段階】

▼設計コンペの公開

○事例：せんだいメディアテーク

設計コンペのプロセスを完全公開型とすることにより、住民がプロジェクトの概要や設計条件等について知る機会を設け、住民が地域に作られる都市機能施設に関して自分ごと化して共に考えていく環境づくりを実践。

以下のタイミングで市民アンケートを実施

- ・設計コンペ実施前
- ・設計コンペ最優秀案決定後
- ・基本設計前期について
- ・基本設計後期・事業計画案について
- ・実施設計・事業計画案について

【構想段階～整備段階】 ※詳細は次頁

▼市民と一緒に考え、作り上げていくという「育てる広場」をキーコンセプトに様々な対話・ワークショップ、社会実験等を実施

○事例：おにクル（茨木市）

エリアの活用方法の検討段階から市民と一緒に作るための施策を展開（対話、ワークショップの開催、広場を活用した社会実験の実施など）

▼『活動する人を増やす』の達成を目指し、勉強会や市民WSの実施

○事例：分じろう（十日町市民交流センター）

構想段階から使い手である市民と一緒にワークショップを重ね、設計・工事段階においても市民等の意見を取り入れながら整備を実施

出典：都市機能施設の効果的な整備・運営に向けた手引き-2023
(国土交通省都市局都市計画課・市街地整備課・街路交通施設課) 及びその他調査により作成

【事例①】 茨木市文化・子育て複合施設 おにクル（茨木市） （1/2）

- ✓ 2023年（令和5年）11月に開業したホールや図書館、子育て支援、市民活動センター、プラネタリウムなど、多くの機能が入る複合施設
- ✓ 2015年（平成27年）12月に閉館した市民会館とその周辺を含めた「市民会館跡地エリア」の活用方法の検討を行うにあたり、行政だけでなく、市民と一緒に考え、作り上げていくという「育てる広場」をキーコンセプトに様々な対話・ワークショップ、社会実験等を実施
- ✓ 以下は取組の抜粋（★印の活動は次頁に詳細を記載）

実施時期	取組内容	
2016年～ 2017年	確かな未来ミーティング「市民会館100人会議」	・ 市長と市民が「対話」する「市民会館100人会議」を開催。9回にわたって、市民会館跡活用に関する対話を実施
2018年	市民会館跡地エリア活用ワークショップ	・ 市民会館跡地エリアの活用を考えるワークショップ『みんなで「育てる広場」をつくろう！』を2回開催 ・ 「施設編」と「広場編」に分かれ、後者は使い方や過ごし方を考えるだけでなく・・・実際に「社会実験」として、「広場を作って、使う」というところをゴールに、みんなで「企画」の検討を実施
2018年	芝生広場社会実験「IBALAB」★	・ キーコンセプト「育てる広場」の実現への取組のひとつとして、芝生広場づくりから、企画づくり、実施まで市民とともに“つくり、育てる”社会実験の実施
2020年	市民会館跡地エリアの未来を想像してみよう！オンラインシンポジウム	・ 市民会館跡地エリア整備の設計コンセプトを知り、そこから生まれる交流やにぎわいづくりについて市民の方々と一緒に考えるためのシンポジウム - ーセッション1：広場と新施設をみんなが考え、使い、つくりあげていけるようにするために必要なことを建築的な視点から検討 - ーセッション2：人々が集い、楽しく過ごせる空間を、市民のみなさんと一緒にどのようにつくっていったらよいのかを検討
2020年～	ひろばかいぎについて	・ 広場をつくり、つかうことについて市民と一緒に考えていくための「広場会議」を定期開催。広場がよりよい空間になるよう検討 ・ イベントの実施報告、イベント予定者の企画紹介と企画アイデアの出し合い・意見交換、さらに広場について気が付いたこと、課題などを検討
2021年	ルール作り会議について	・ 新施設と広場での市民活動を楽しむ「ルールづくり会議」を開催 ・ 多機能な施設を市民に使いこなしてもらいたい、市民が楽しみながら活動できる場所になるように、“使い方”や“大事にしたい思い”を考えることを目的とした会
2022年	コーディネーター養成講座「コトレジ」★	・ 「おにクル」の開館をきっかけに、茨木市の市民活動を楽しむ充実させていく「コーディネーター」を養成する講座

【事例①】 茨木市文化・子育て複合施設 おにクル（茨木市） （2/2）

□社会実験の場「IBALAB@広場」

※令和2年秋から令和6年度までの期間限定の広場

○社会実験の実施（2018年8月26日～11月30日）

- ・ キーコンセプト「育てる広場」の実現への取組のひとつとして、人工大地に期間限定の芝生広場づくりから、企画づくり、実施まで市民とともに“つくり、育てる”社会実験を実施
 - 市民約60名が参加したWSで社会実験の各企画を検討
 - 企画に基づき、芝張りワークショップ、ベンチづくりワークショップ、花の寄せ植え、こたつ作りワークショップを行い、広場づくり
 - 出来上がった広場では、「まちなかシェアダイニング」「こたつでコミュニケーション」「マルシェ」など多様な企画を実施

○現在

- ・ キーコンセプトの「育てる広場」の実現に向け、広場をつくる（設計段階）から広場を「つかう」人々とルールを考え、更新していく取組を継続
- ・ 「おにクル」開館に向けたデータ収集を目的として、実験的に広場を提供
 - 日頃の活動を表現したい、何か催しをやってみたい、という人のために広場や備品を無料で貸し出し
 - 広場のコーディネーターが、「広場を使ってみみたいけど、イベントや活動の披露はしたことがない」という方の事前相談を受付
- ・ 令和6年度までの期間限定だが、IBALAB@広場で生まれた活動や人のつながりは、「おにクル」にも引き継いでいく、とされている



（茨木市HP）

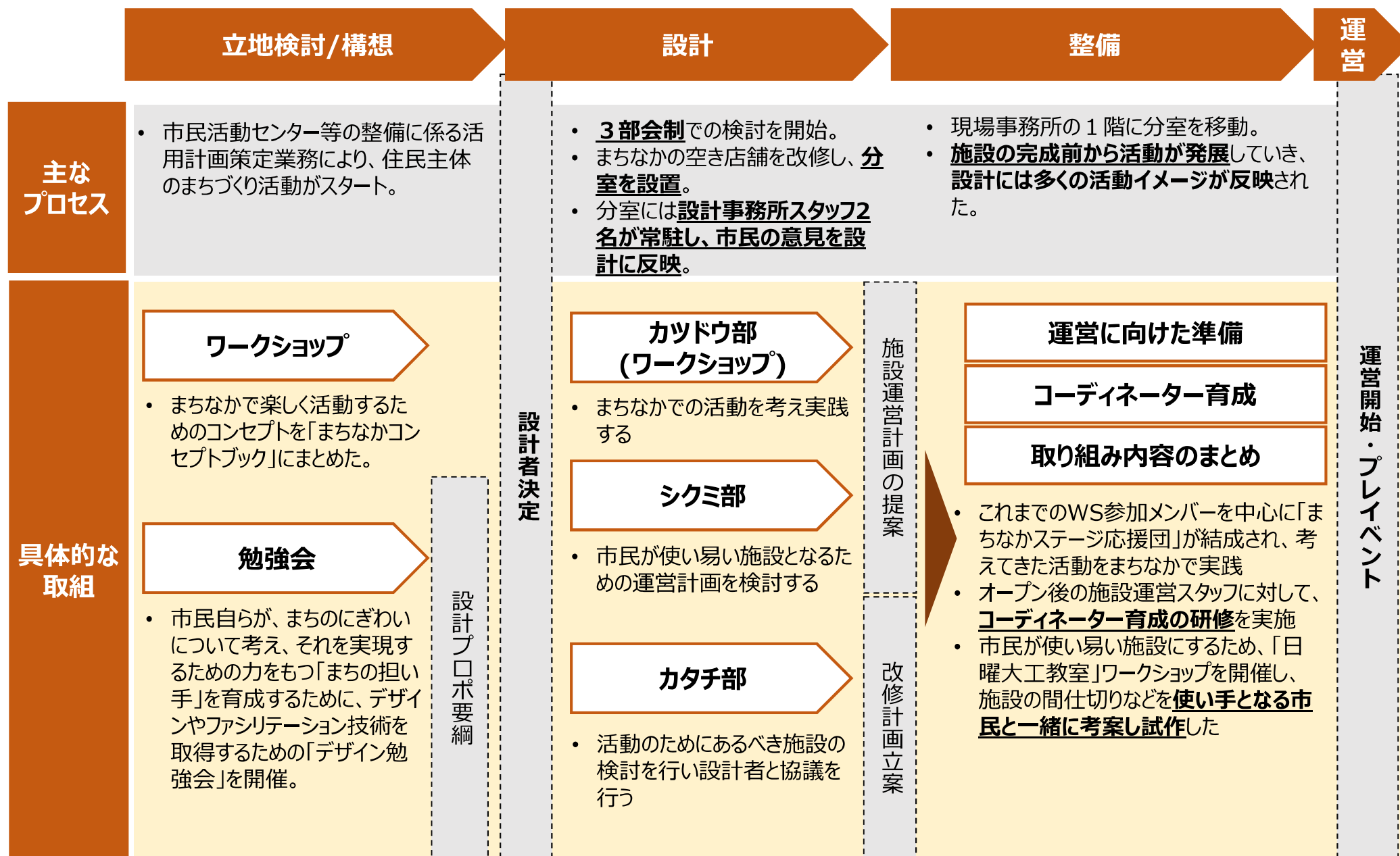
□コーディネーター養成講座「コトレッジ」（令和4年度）

- ・ 「コトレッジ」は、「おにクル」の開館をきっかけに、茨木市の市民活動を楽しく充実させていく「コーディネーター」を養成する講座
- ・ コーディネーターに必要なスキルを講座やワークショップ、実践を交えた演習プログラムを通して習得。計4回開催

コーディネーターとは		アイデア発想	
1 7/3	実際に活躍しているコーディネーターを招き、トークセッションを通じてコーディネーターとは何かを考えます。また、みなさん自身のキャラクターを理解し、めざすべきコーディネーター像をイメージしていきます。	4 5/28	コーディネーターが持つ市民活動に関する専門的な知識を活かしたアイデア発想支援。実際に生じた具体的な事例を題材にシミュレーションしながら理解を深めていきます。
共感と対話		実践演習	
2 7/23	コーディネーターのスキルで大切な共感性。実際に共感し合う状況をつくってみることで理解を深めていきます。	5 9-12月	IBALAB@広場など、「おにクル」のオープンに向けて様々な市民活動が展開されています。それらをフィールドにコーディネート支援を実践し、定期的に情報共有しながら学んでいきます。
調整・コーディネート		ふりかえり	
3 8/6	コーディネーターのスキルで大切な調整力。実際に生じた具体的な事例を題材にシミュレーションしながら理解を深めていきます。	5 2月予定	研修や実践演習を通して得た学びを発表します。

（コトレッジチラシより抜粋）

【事例②】 分じろう（十日町市民交流センター）（※第3回会議資料の一部再掲）



3-1. 運営段階における関わり方 ～想定される機能

- ✓ 運営段階では、市民や専門家の関わり方として、大きく以下の4つに分類され、①から④に行くほど、関与度は高い
①相談機能、②サポート機能、③運営支援機能、④運営への関与

①相談機能	利用者や訪問者に対する情報提供や相談対応を行うもの →窓口でコンシェルジェ的に案内・相談対応を行うものから、専門家が直接利用者にアドバイスを行うなど、対応の幅は様々
②サポート機能	情報収集や発信、活動実施時の技術的支援など、創造・表現活動を支援するための利用者を支援する機能
③運営支援機能	施設の運営の一部に役割を担い、支援を行うもの →イベント・ワークショップなど自ら企画・運営するほか、施設管理者との連携による事業の主催・共催、さらに利用者が施設の一部を管理するなど
④運営への関与	施設管理者から業務委託を受けるなどして直接的に施設の管理・運営や各種事業を直接的に実施するもの

3-2 . 機能別の管理運営の方法

- ✓ 事例やこれまでの会議で頂いたご意見をもとに、管理運営に市民や専門家が参加する方法の例を整理した
- ✓ 財政負担が生じるもの、管理運営の組織のガバナンス等、事例によって課題・特徴がある点に留意

機能	管理運営の方法（例）		課題	類似事例	
①相談機能	コンシェルジュ	窓口での相談受付、（簡易的）イベント実施支援	人員確保	相談サービス・インフォメーションコーナー（札幌市民交流プラザ）	 財政負担の発生（増加） ・ 関与度大
	専門家アドバイザー	専門家によるアドバイス提供(常駐、不定期、イベント・ワークショップ等など、関与の形態は様々)	- 人員（専門家）確保 - 関与のあり方	（外部専門家による）出張相談（参考：アーツカウシルさいたま）	
②サポート機能	サポーター（ボランティア）	イベント等の支援（窓口対応、研修・交流会への参加等）	- 人員確保 - 継続的かつ実効性のある組織づくり	G-Free（岐阜市民会館）	
	技術支援	ボランティア団体或いは団体等による技術支援（例：舞台技術スタッフ等としての活動）	- 人員確保 - スタッフの教育・育成	Staff Egg（みの〜れ）（ボランティア団体による支援）	
③運営支援機能	自主管理方式	（原状復帰を原則に）利用者が自主管理	管理の質、安全性等の確保	自主管理方式（金沢市民芸術村）	
	市民ディレクター	公募市民が施設の一部を管理・運営	- 担当者の選定・管理 - 管理運営の質	市民ディレクター制（金沢市民芸術村）年120万円	
	文化団体	施設管理者と連携し運営支援（事業の主催・共催、研修会の開催等）	団体の人員確保・管理	Alaクルーズ（可児市文化創造センター）年180万円 四季文化館企画実行委員会（みの〜れ）	
④運営への関与	委託業務	- 施設の管理・運営（委託） - イベントの企画・実施 - 育成事業の実施	コスト負担	ネクストゼロ（兵庫県丹波市）2024年の市からの受託費：3,865万円	

【事例紹介】

分類	施設名	事例
市民参加	可児市文化創造センターala	alaクルーズ
		市民参加プロジェクト
	おにクル	そだてるラボ
	金沢市民芸術村	自主管理方式
		市民ディレクター制度
	岐阜市民会館	市民スタッフ「G-free」制度
市民参加・専門家の関与	ライフピアいちじま・春日文化ホール	ネクストゼロ
	小美玉市四季文化館（みの〜れ）	四季文化館企画実行委員会
		Staff Egg
		みのんば編集局
地域との関わり	三重県文化会館・OiBokkeShi	「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクト

- ✓ 可児市文化創造センター alaを拠点に活動する文化ボランティア団体として「alaクルーズ」を2001年に設立
- ✓ 文化・芸術に関する事業の主催・共済や財団事業のサポートに加え、情報収集・発信や市民が参加できる文化活動を行っている

alaクルーズ

【概要】

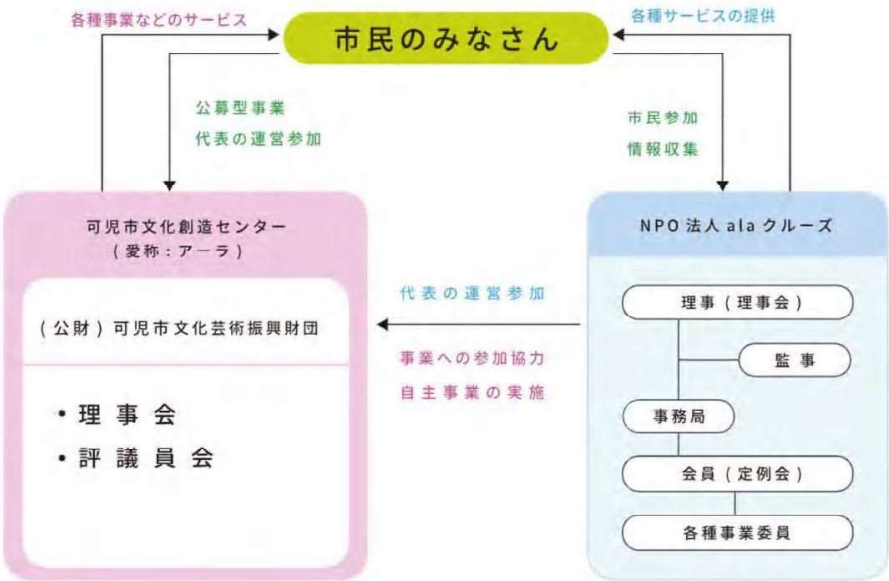
- 「alaクルーズ」は、可児市文化創造センター alaを拠点に活動する文化ボランティア団体として2001年に設立（2004年にNPO法人化） ※2024年5月に解散

【目的】

- 自主運営するボランティア組織として、各種事業や活動を展開するとともに、可児市文化芸術振興財団（指定管理）が行う諸事業と連携し、市民の文化振興に対する意識の高揚を促すとともに、個々が自己実現と生きがいを得ることにより、市民の文化・芸術の創造に寄与することを目的として活動を行う

【活動】（指定管理財団が認めた事業に対して、年間180万円ほど提供）

- 各種文化・芸術に関する事業の主催及び共催
- ア－ラで開催される財団事業などのサポート
- 会員の知識や技術を向上させるための講座及び研修会の開催
- 市民に開かれた会であるための各種情報の発信及び収集
- あらゆる市民が参加できる文化活動
- その他、目的を達成するために必要な活動



- ✓ 関係構築や創作意識の向上を目的に、市民が制作過程からプロジェクトに参加する大型市民参加プロジェクトを毎年実施

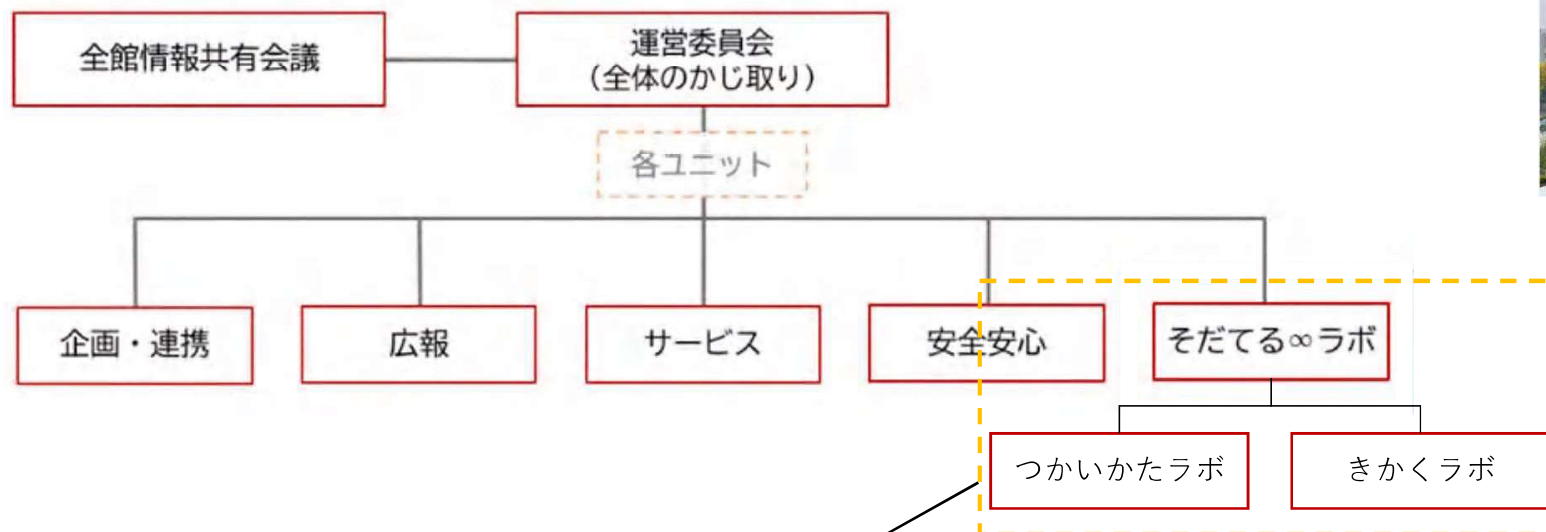
市民参加プロジェクト

- 可児市文化創造センターalaでは、2008年度より毎年、**大型市民参加プロジェクト**を実施（3年毎に、ミュージカル、コンテンポラリーダンス、演劇をサイクル）
- 毎回100名程の市民がプロジェクト参加**し、制作過程において多くの市民が関わり作り上げていくことで、参加者同士の絆を育み、地域への愛着を深めることが目的
- プロのスタッフ・キャストの方々と共同・共演**することにより、市民の創作意識を高め、地域の活性化を図る



- ✓ おにクル（2023年開業）では、組織の枠を超えて施設全体の運営をみんなで一緒に考える「おにクル会議」（主に市職員・指定管理者で構成）を設置しており、おにクルの利用者が施設の使い方やあり方について考え実験を行う「つかいかたラボ」と、市民が企画をつくり実施する「きかくラボ」からなる「そだてるラボ」を設置

おにクル会議



【概要】

- 利用者・関わる市民と一緒に、おにクルや、茨木全体の共創の取組みを進めていくことを目的として設置
- 市民、団体、学生、民間事業者等も参加している
- 「そだてるラボ」では、「つかいかたラボ」「きかくラボ」の二つに分けて、企画や事業を展開

【つかいかたラボ】

- おにクルのオープンスペースを中心に、もっとこうなったらいいな、（施設として）ちょっと困ったな、といったことを市民で考え実験を行う

【きかくラボ】

- 参加者同士が顔見知りになり、中には意気投合して一緒にイベントを開催するなど、多様なつながりや新たな可能性・連携を作り続けることを目的に、市民みんなで企画をつくり実施する

つかいかた ラボ

- ・ 芝生広場やエントランスなど、人が行き交う共用部分を「オープンスペース」と名付け、活動場所として貸し出している
- ・ オープンスペース利用の際には、事前におにクルのスタッフがヒアリングを実施し、より魅力的なイベント等となるよう、「見える」場だからこそそのアドバイスを行う
- ・ つかいかたラボでは、施設内で新たなオープンスペースを発掘したり、来場者が心地よく過ごせるアイデアを生み出す企画を実施



エントランス広場で演奏会



オープンギャラリーでマルシェ



オープンギャラリーで展示会

きかくラボ

- ・ 市民が関わることで、参加者同士が顔見知りになり、中には意気投合して一緒にイベントを開催するなど、多様なつながりや新たな可能性がたくさん生まれている
- ・ そのようなつながり、連携をこれからも作り続けることを目的に、みんなで企画をつくり、実施してみるのがきかくラボ



- ✓ 金沢市民芸術村では、利用者自身が施設を使用・管理する「自主管理方式」を採用しており、利用者が運営にも携わっている
- ✓ 加えて、市民ディレクター制度も取り入れており、3つの工房の運営を行う人材を公募で各2名選出している

自主管理方式 (年中無休・24時間)	- 運営面では、原状復帰を原則に、利用者自身が責任をもって施設を使用・管理する「自主管理方式」を取っている - 自由な表現活動が保証される代わりに利用者自身も責任を持つ、金沢市民芸術村独自の運営方法 - この運営方法により、年中無休・24時間・低料金で利用可能 - 利用者は、早朝から深夜に及ぶまで、退館時間を気にすることなく様々な創作活動に打ち込むことができる
市民ディレクター制	「市民ディレクター制度」を導入し、ドラマ・ミュージック・アートの3つの工房には、演劇・音楽・美術の専門家の中から、バランス感覚に優れ、ボランティア精神を有する人材を公募で各2名選出(ディレクター)し、工房運営を任せている - 利用者の代表でもあるディレクターたちは、数年間の任期中、施設利用を活性化し、市民が芸術への関心を深め、身近に参加できる主催事業(アクションプラン)の企画・立案などに取り組み、「市民が主役」となる施設運営を行っている - 企画運営、その他の活動に係る業務委託金等として、毎月10万円(企画料5万円+経費5万円)支払われていたとの情報あり(2000年)
アクションプラン事業	- ドラマ・ミュージック・アートの3工房の市民ディレクターが企画・立案する金沢市民芸術村の主催事業 - 初心者でも気軽に参加できる体験型ワークショップや、子供から大人までを対象とした多彩なイベントを展開 - 市民が気軽に芸術文化に触れる機会の提供、次代を担う若者への支援事業、市民への啓発事業を通じて、金沢市の新しい芸術文化創造の育成に寄与することを目的に実施

出所：金沢市民芸術村HP、芸術文化学科インタビュー記事

- ✓ 岐阜市民会館では、文化・芸術活動をコーディネートする人材の育成、市民交流、文化振興に対する意識の向上を目的として、市民スタッフ「G-free」制度を導入。主催事業のサポートに加え、市民スタッフによる企画も行っている

市民スタッフ
「G-free」制度

【制度概要】

- 岐阜市民会館では、下記を目的にした**市民スタッフ（G-free）を募集**
 - 文化・芸術活動をコーディネートする人材を生み出す
 - 個性的で多彩な「ぎふ文化」の創造を図る
 - 文化・芸術を軸とするコミュニケーションを形成することにより、市民が様々に交流し、自己実現を図る
 - 市民の文化振興に対する意識の高揚を図る
- 申込者に対し活動内容・活動の趣旨等の話をし、相互理解した上で市民スタッフ（G-free）として登録（2023年3月末時点で、**20代～80代の41名**が在籍）

【活動内容】

- 主催事業等の手伝い・宣伝
- 市民スタッフ企画・ぎふアジア映画祭の企画・運営
- 研修・交流会への参加

**“G-free”
スタッフ募集！**

岐阜市民会館
岐阜市文化センター
施設ボランティア



20代～80代の41名が
活躍しています！
自分に合ったスタイルで、
やりたい事！
できる事！から
ご参加ください！！

- 自主事業公演当日
 - ・チケットもぎり
 - ・アンケート配布・回収
 - ・会場案内 など
- 市民スタッフ事業
- ぎふアジア映画祭
 - ・企画
 - ・映画祭作品選定
 - ・運営・広報・HP など



- ・カメラ、ビデオなどの記録撮影
- ・イラストの作成
- ・活動紙、チラシの作成

**興味のある方はご連絡ください！
会議の見学も可能です。**

出所：岐阜市民会館HP

- ✓ 市民が出演から裏方まで関わる市民参画型の公演運営を次代に繋ぐことを目的とし、ホール運営の経験者らで一般社団法人「ネクストゼロ」を設立（2024年設立）
- ✓ 市からの委託を受けて、自主公演の企画・運営、アマチュアアーティスト育成支援事業の運営・出演、ボランティアスタッフの技術指導等を行っている

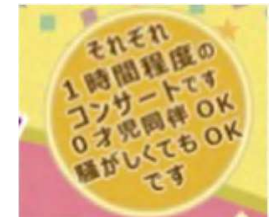
ネクストゼロ	- 兵庫県丹波市内の文化ホール（ライブピアいちじま、春日文化ホール）を会場に、市民が出演から裏方まで関わる市民参画型の公演運営を次代につなごうと、ホール運営の経験者らで一般社団法人「ネクストゼロ」を立ち上げ - 市民のニーズに合った柔軟な公演企画や、次代を担う舞台技術スタッフの育成強化につなげる - 受託業務（2024年の市からの受託費：約3,865万円） ➢ 市主催の自主公演の企画・運営 ➢ チケット販売、窓口対応 ➢ バンド、ピアノ、ダンス、和太鼓の「アマチュアアーティスト育成支援事業」の舞台運営・出演受け付け ➢ 舞台裏方のボランティアスタッフ（市立文化ホールオペレータークラブZERO-IV）の技術指導等
---------------	---

【実施している事業例】

舞台技術オペレーター 育成講座	市民参画と協働のまちづくりを目指し、地域住民が文化の担い手として取り組める機会を提供し、舞台芸術への関心の向上と、更なる組織の拡充・人材育成を目指して、舞台技術オペレーター育成講座を開催
----------------------------	---



0才からの アフタヌーンコンサート	- 子どもたちと一緒に楽器の生演奏を楽しむコンサートを開催 0才児も同伴可能（騒がしくてもOK）で、小さい子供がいる人も親子でコンサートを楽しむことができる
------------------------------	---



小美玉市四季文化館（みの〜れ）

市民参加・専門家の関与

- ✓ 市民により構成される「四季文化館企画実行委員会」があり、生活者・利用者の視点から事業の審査・決定を行っている
- ✓ また、市民ボランティア「Staff Egg」に研修やワークショップを提供し、学習・実践の場を提供している

四季文化館企画 実行委員会

- ・ 公募市民10名で構成
- ・ みの〜れ自主事業の選定を行うアーツカウンシル（※）
- ・ 生活者の視点から、地域の幸せにつながる事業を審査・決定
- ・ 支援組織の実情を把握し、助言や組織同士のマッチング等、幅広い機能も果たす
- ・ 任期は2年で委員の半数を入れ替える

※アーツカウンシル：文化・芸術の環境整備に携わる第三者機関を指し、公的な資金を提供する文化・芸術事業を審査・決定する。

【Staff Egg（スタッフエッグ）】

- ・ 舞台技術ボランティアスタッフ
- ・ 舞台技術管理マネージャーからのレクチャー、座学研修、実践研修、ワークショップ等を通じて舞台技術について学習し、舞台技術ボランティアスタッフとして活動する

【みのんば編集局】

- ・ 取材・撮影・文化情報紙「おみたマガジン」の編集を行う広報スタッフ
- ・ 取材・編集は住民ボランティアが行う



出所：四季文化会館HP

- ✓ さいたま市では、市民が暮らしの中で文化芸術と触れ合う機会を増やし、市民生活の多様な場面で創造活動が行われる環境を整備するとともに、文化芸術を通じて将来のさいたま市の姿を考えることを目的に「アーツカウシルさいたま」を創設（2022年）
- ✓ 事業の一環として、外部専門家等によるセミナー形式のレクチャーや、外部専門家等を招いた出張相談（個別相談）を行っている

外部専門家 等によるレク チャー・出張 相談

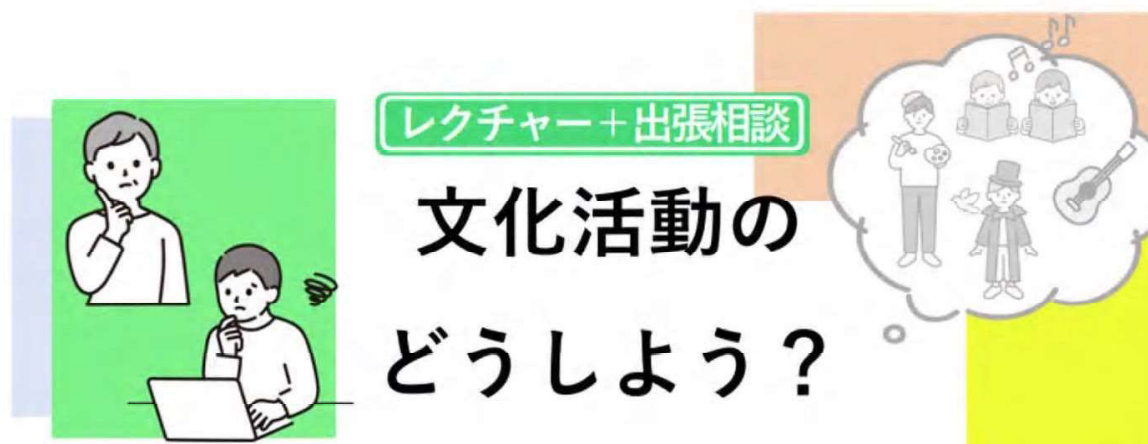
【レクチャー】

- 外部専門家等によるセミナー形式のレクチャーを実施
- 芸術文化の活動を始める・続けていく際の運営の課題について、その道のプロを招いてスキルアップ・ノウハウを学ぶレクチャー

例：アーツカウシルさいたまプログラムディレクターである森隆一郎が講師となって「広報の基礎編」についてレクチャーを実施

【出張相談】

- 文化芸術団体等が活動をステップアップしていくために必要となるであろうスキルやノウハウについて、外部専門家等を招いた出張相談（個別相談）を実施
- 個別相談では、広報以外のことでも芸術文化や活動に関するご相談も受け付けている
- 芸術文化活動を行っている方だけでなく、これから芸術文化活動を始めようと考えている方、芸術文化活動の広報について興味がある方など誰でも参加可能



- ✓ 高齢者や介護者と共に作る演劇公演や、認知症ケアに演劇的手法を取り入れたワークショップを実施しているOiBokkeShiと共に、「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクト事業を実施。（一般財団法人）地域創造から助成を受けている。

「介護を楽しむ」 「明るく老いる」 アートプロジェクト

【活動内容】

- ・ 三重県文化会館が俳優・介護福祉士の菅原直樹さんとタッグを組んだアートプロジェクト
- ・ 超高齢社会の中で、演劇が介護・老いの課題にどうアプローチできるか、2017年より県内各地で3年にわたる事業を展開し、医療・介護の両面から専門家を招き、3年間の記録を分析・調査。2019年にはそれらをレポートとしてまとめ、冊子を発行
- ・ 2020年からは、これまでの知見を県内に還元するため、プロジェクトの中で生まれた集団「老いのプレーパーク」による出張演劇公演＋体験講座を1年1市町で展開

【介護を楽しむ】

- ・ 介護の現場に携わる職員の方々や、専門学校の先生・生徒、認知症の人とそのご家族、また今後の高齢社会を担う子どもたちに向け、講演会や介護に演技の手法を取り入れたワークショップ（体験型講座）を開催
- ・ 介護する側・される側のより良いコミュニケーションを考え、新しい介護のモデルケースづくりに取り組む
- ・ 遊びを通してリハビリを行う「遊びリテーション」や、認知症の人とのコミュニケーションを考えるロールプレイングなど、介護に演技の手法を取り入れ、介護する側もされる側も、お互いがもっと楽に気持ちよく過ごせる、ちょっとした気づきを得る体験講座

【明るく老いる】

- ・ それぞれの人生を振り返りながら、老いをポジティブに捉えるワークショップを開催
- ・ 2年目以降、ワークショップで出会った仲間をはじめ、シニアや介護関係者と共に「老いのプレーパーク」を立ち上げ
- ・ 老いのリハーサル：まだまだ自分の老後が想像できないという世代も、老いに直面し様々な悩みを抱えている世代も、演劇を通して老いた自分をリハーサルすることで、不安を解消したり、老いに前向きになることができる演劇ワークショップ



出所：OiBokkeShi HP、三重県総合文化センターHP、一般財団法人地域創造HP

(参考) 札幌市民交流プラザ

参考（相談サービス）

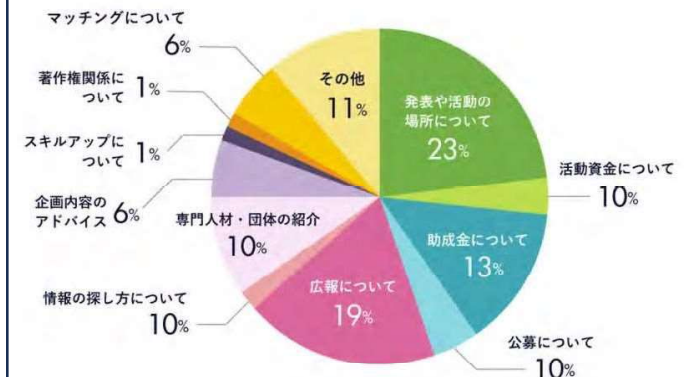
- ✓ 札幌市民交流プラザでは、文化芸術活動に関する課題・悩みを受け付ける「相談サービス」や、施設利用に関する問い合わせ・チラシ持込に対応する「インフォメーションコーナー」を設置している

相談サービス



- **文化芸術活動に関する課題・お悩みに関する相談**を受け付けている
- 日々の活動での困りごとの相談に対して職員が課題解決に向けて一緒に考える
- 事前予約制、利用無料
- 対面、オンライン、メールでの相談が可能

SCARTS相談サービス： 利用内容別実績



インフォメーションコーナー



- スタッフが常駐し、**施設利用に関する問合せやチラシの持ち込み等に対応**
- 市内で行われる文化芸術イベントを中心に広報物を配架
- 札幌市民交流プラザで開催する催し、札幌市内で開催する文化イベントの情報について、文化イベント情報のチラシ・DMの受け取りの対応をするインフォメーションカウンターあり

チラシ受け取り用ボックス



出所：札幌市民交流プラザHP

参考事例と事業手法

施設の整備運営に係る事業手法には、自治体が整備・運営を行う公設公営から、民間活力を活用した手法などがある。
概要事例については下表のとおり。

※◆印は次頁以降に事例紹介あり

手法	概要		事例
従来方式 (公設公営)	- 市が設計、施工、維持管理及び運営の業務について、直営もしくは一部の業務を民間事業者に請負・委託契約として仕様発注するもの - 基本的には、業務毎の個別発注、単年度契約となる		◆ 市民交流施設 高田城址公園オーレンプラザ ・ 相馬市民会館 ほか
DB+指定管理	市自らが資金を調達し設計(Design)、建設(Build)を一括発注したうえで、運営段階では、市が特定の法人等を指定管理者として指定し、包括的に施設管理を代行させるもの		◆ おにクル ・ 小田原市民ホール ほか
PFI方式	民間事業者が資金を調達し、設計、施工、維持管理及び運営の業務の全部または一部について、一括して民間事業者に委ねる事業手法(整備・運営に係る費用は公共が支払う＝サービス購入型) - 性能発注、包括発注となる		◆ 東大阪市文化創造館 ・ 静岡市清水文化会館 (マリナート) ・ 福岡市拠点文化施設 ・ ホルトホール大分 ほか
民設民営	民間事業者が施設の設計・施工・維持管理・運営等を行うもの (必要に応じて公共が借上)		◆ サントリーホール ◆ 草月ホール ・ 立川ステージガーデン ・ オーチャードホール ほか
その他	(再開発事業) 駅前等の再開発事業の中で、文化施設を整備する		◆ 神戸文化ホール (再開発事業)

市民交流施設 高田城址公園オーレンプラザ

市街地中心部にある高田公園内に位置する、多目的ホール、公民館、子育て支援の機能を有する複合施設。

設計、建設、維持管理・運営は個別発注（契約）する従来方式で実施。

施設概要	
所在地	新潟県上越市本城町8番1号
開館	2017年9月
延床面積・階数	- 延床面積：5,004m² - 地上3階
構成施設	- ホール(606席)、楽屋 - スタジオ - 練習室 - 研修室・会議室 - 多目的室 - 創作室、陶芸室 ほか
事業手法	従来手法

出典：上越市HPより



【外観】



【ホール】

茨木市文化・子育て複合施設 おにクル

JR茨木駅と阪急茨木市駅の間、まちの中心部に立地する施設。「育てる広場」をコンセプトに、ホールや図書館、子育て支援、市民活動センター、プラネタリウムなど、多くの機能が入る複合施設。施設整備は設計(Design)・施工(Build)の一括発注、一部の運営は指定管理者制度を採用。

施設概要	
所在地	大阪府茨木市駅前三丁目9番45号
開館	2023年11月
延床面積・階数	- 延床面積：19,715.22m² - 地上7階
構成施設	- 大ホール(1,201席) - 多目的ホール - 図書館 - プラネタリウム ほか
事業手法	DB+指定管理方式 指定管理者：サントリーパブリシティサービス(株) ほか

出典：施設HPより



【外観】



【多目的室】

東大阪市文化創造館

近鉄奈良線「八戸ノ里駅」から徒歩 5 分程の場所に位置する、市民の文化芸術活動の発表の場として、大小ホールや多目的室を備えた施設。設計・施工、維持管理・運営業務を一括契約するPFI方式にて実施。

施設概要	
所在地	大阪府東大阪市御厨南二丁目 3 番 4 号
開館	2019年9月開館
延床面積・階数	- 延床面積:14,934m² - 地上5 階 地下1階
構成施設	- 大ホール(1,500席)、小ホール(300席) - 多目的室、音楽スタジオ - 創造支援室 - まちライブラリー ほか
事業手法	PFI方式（新市民会館整備運営事業）
受託者	PFI東大阪文化創造館株式会社 （代表企業：(株)大林組、構成員：(株)共立、(株)大阪共立、(株)リバティ・コンサーツ、(株)キョードーエンターテインメント、(株)東急コミュニティー）

出典：施設HPより



【外観】



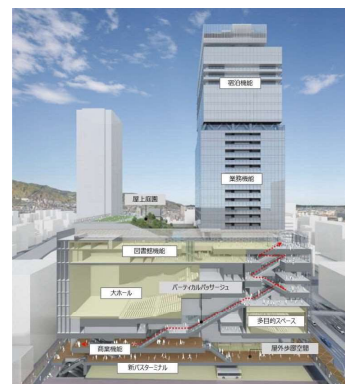
【小ホール】

神戸文化ホール

神戸市三宮では、バスターミナルやホテルなどを備える再開発ビルが建設予定。その再開発ビルの中に「神戸文化ホール」が移転される計画。再開発ビルのうち、ホール機能及び図書館機能の内装工事については別途入札を実施。

施設概要	
所在地	兵庫県神戸市中央区雲井通四丁号
開館	2028年予定
延床面積・階数	- 延床面積：99,422m²（第1期） - 地上32階、塔屋2階、地下3階(第1期)
構成施設	- バスターミナル - オフィス、商業施設 - 図書館機能 - ホール機能（大ホール(1,800席程度)、区民利用に対応する多目的スペース） - 観光案内センター ほか
事業手法	再開発(雲井通 5・6 丁目地区再整備事業)

出典：神戸市HPより



【施設イメージ】



【大ホール】

サントリーホール

東京都赤坂に位置する、「世界一美しい響き」を基本コンセプトに掲げる、クラシック音楽専用のコンサートホール。建物は森ビルとサントリーホールディングスが所有し、公益財団法人サントリー芸術財団が運営を行う。

施設概要	
所在地	東京都港区赤坂1-13-1
開館	1986年
延床面積・階数	- 延床面積：12,516㎡ - 地下2階、地上3階
構成施設	- 大ホール(2006席) - 小ホール(384席～432席) - リハーサルルーム - ホワイエ - 広場 ほか
事業手法	民設民営 ・施設所有：森ビル、サントリーホールディングス ・運営：公益財団法人サントリー芸術財団

出典：施設HPより



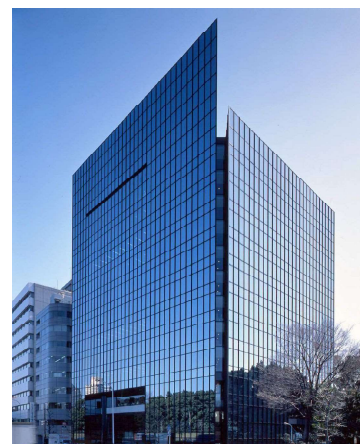
【大ホール】

草月ホール

赤坂の草月会館内にある、多目的ホール。コンサート・映画・演劇・ダンス・お笑いライブ・セミナーなど、様々な用途で利用可能。一般財団法人草月会が所有する草月会館の中に位置し、運営も同法人が行う。

施設概要	
所在地	東京都港区赤坂7-2-21
開館	1977年
延床面積・階数	- 延床面積：12,300 m²（草月会館） - 地下4階、地上11階、塔屋2階
構成施設	- 多目的ホール(526席) - プラザ - カフェ ほか
事業手法	民設民営 ・施設所有・運営：一般財団法人草月会

出典：施設HPより



【外観】



【内観】